

平成16年（行ウ）第20号 八ツ場ダム費用支出差止等請求住民訴訟事件

原告 柏村 忠志 外20名

被告 茨城県知事 外1名

意見陳述書

2006（平成18）年5月9日


水戸地方裁判所 民事第2部 御 中

茨城県取手市台宿2-1-15

原告 塚 越 恵 子 印

本件につき、別紙資料に基づき意見陳述します。

ダム建設の目的は治水と、首都圏への水供給！？
ハツ場ダム



ハツ場ダムは、利根川中下流部の洪水被害を軽減すること、東京、埼玉、千葉、茨城、群馬の1都4県に合わせて122万ℓ/日の都市用水を供給することを目的として建設されることになっています。しかし、ダムの構想が浮上したのが半世紀前の1952年。現在のダム計画がほぼ出来たのが1965年頃で、もう、ひと昔前の計画です。

「水余り大県」茨城

余剰水は一日80万 m^3
茨城県民300万人を潤して
栃木県民200万人分の
水が余っている

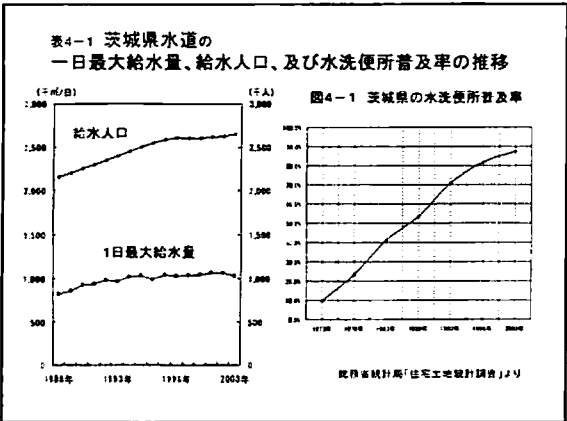
概況

1. 水道水は今でも人口ピーク分をもっている
2. 工業用水は県も企業も持て余している
3. 地盤沈下は沈静。地下水は活用すべきだ
4. 水予測データのカラクリ
5. 渇水騒動は県の誇大宣伝だ。

水道

水需要予測三つの幻想

1. 水道普及率の上昇で
給水人口が増えるから水不足になる
2. 水洗便所の普及で水不足になる
3. 人口はどんどん増え続ける



実績

水道普及率の上昇で
給水人口は増えて、
水洗便所が普及しても
一日最大給水は増えない！

そのうえ

茨城県人口は減少期に入った

2000年度国勢調査 298.6万人

2005年度国勢調査 297.5万人

11,000人減少

茨城県は1999年度300万人を
ピークに人口は減少に入った

茨城県水道の保有水源

霞ヶ浦開発	37.6 万 m ³ /日
河川水	49.6 万 m ³ /日
地下水	30.8 万 m ³ /日
霞ヶ浦開発の県保留分	7.2 万 m ³ /日
合計	125.2 万 m ³ /日

「いばらき水のマスタープラン」より

水道水の水余り現況

現在の保有水量	125.2 万 m ³ /日
2003年度1日最大給水量	102.5 万 m ³ /日
現在の水余り	22.7 万 m ³ /日

一人当たり一日最大給水量400リットルとして

約57万人分

水戸市、つくば市、取手市分の
水が余っている

そのうえ

工業用水も膨大に余っている

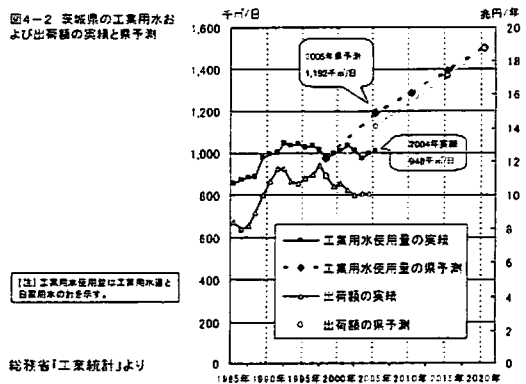
表4-3 茨城県の県営工業用水道の
契約水量及び1日最大給水量の実績

年度	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
契約水量 万m ³ /日 A	106.0	106.6	107.6	107.6	108.2	108.2	108.6
1日最大給水量 万m ³ /日 B	63.2	68.5	70.0	67.7	68.7	70.1	68.0
差(A-B)万m ³ /日	42.8	38.1	37.6	39.9	39.5	38.1	40.6
給水率(B/A) %	59.6	64.2	65.0	62.9	63.5	64.7	62.6

茨城県企業局資料より

毎年60%台しか使われていない。
一日約40万m³もの余剰水を抱えている。

図4-2 茨城県の工業用水お
よび出荷額の実績と県予測



【注】工業用水使用量は工業用水道と
自営取水のものを示す。

総務省「工業統計」より

図4-2 茨城県の水道および県営工業用水道の保有水源と余剰水量

		取水量ベース m ³ /秒	給水量ベース 万m ³ /日	最大給水量 万m ³ /日	余剰水量 万m ³ /日
水 道	霞ヶ浦貯水	4.44	67.6	2003年度 最大給水量 102.5	22.7
	河川水	5.854	49.6		
	地下水	6.642	30.8		
	小 計	13.936	116.0		
	兼保有分	0.856	7.2		
	水道の計	14.792	125.2		
県営工業用 水道	霞ヶ浦貯水	13.854	117.4	2003年度 最大給水量 68.7	57.2
	河川水	0.887	7.5		
	地下水	0.118	1.0		
	工業用水道の計	14.859	125.9		
合 計		29.651	251.1	171.2	79.9

【注】給水量ベースは利用率(給水量/取水量)を98%として求めた。95%は資料範囲である。
いばらき水のマスタープラン、茨城県企業局資料、日本水道協会「水道統計」

現在の茨城県の水余り

水道用水の余剰	22.7 万 m ³ /日
転用可能な工業用水	57.2 万 m ³ /日
合 計	79.9 万 m³/日

一人当たり一日最大給水量400リットルとして

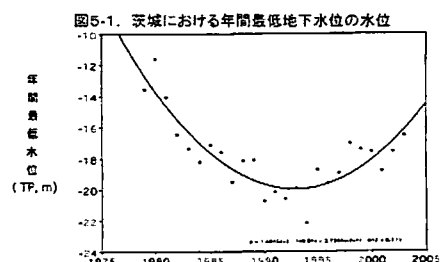
約200万人分

栃木県民すべての水道水がまかなえる

利根水系の水道用地下水

県の計画では地盤沈下対策を理由に
42%の削減
実際には地盤沈下は1997年以降、
ほぼ沈静化
したがって、削減する必要はなく、
安全でおいしい地下水の利用継続が可能

地下水位は上昇している



過大な水需要予測

水需要を「水ぶくれ」させた
三つの欺瞞

1. 過大な人口予測
2. 過大な一人当たり使用水量(有収水量) 予測
3. 有収率と負荷率のサジ加減

たび重なる過大な人口予測

	2010年	2020年
1991年度新水道整備基本構想	403万人	
1997年度長期水需給計画	378万人	
2001年度 いばらき水のマスタープラン		323万人
2006年度新総合計画		300万人未満
2005年度国政調査		298万人

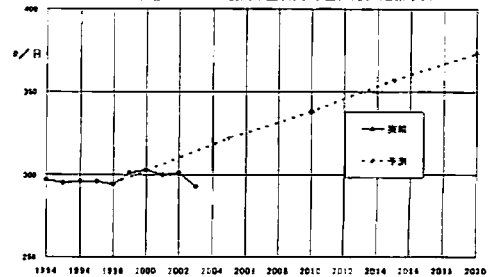
茨城県長期総合計画と各年度の改訂

茨城県は2006年3月
新茨城県総合計画で
2020年度人口予測323万人を
295万人～300万人と変更した。

県の水需要予測は
根底から破綻した。

きわめて過大な一人当り使用水量の予測

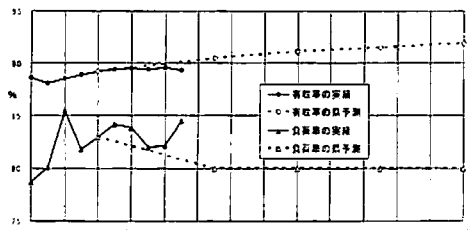
図4-5 茨城県上水道の一人一日使用水量(有収水量)の実績と県予測



各年度の需給計画より

サジ加減ひとつで水需要が膨らむ 有収率と負荷率

図4-6 茨城県上水道の有収率と負荷率の実績および県予測



日本水道協会「水道統計」『いばらき水マスタープラン』

県の水道用水の過大予測(2020年度)

	県の予測値	妥当な予測値	過大率
人口 万人	323万人	300万人	1.08倍
1人当たり使用水量	373リットル	300リットル	1.24倍
有収率	91.9%	94%	1.02倍
負荷率	80%	85%	1.06倍
1日最大給水量全体	164万m ³	113万m ³	1.45倍
1人当り1日最大給水量	508リットル	377リットル	

◆サジ加減ひとつで、120万人以上、51万m³の水ぶくれです。

茨城県における最近の渇水状況

- ・最近では1994年、1996年、2001年に取水制限が行われた。
- ・しかし、節水よびかけ、減圧給水の範囲にとどまっておき、特段の影響は出ていない。
- ・これは、最近の水あまり状況を反映したものである。

近年の最大渇水平成6年の状況

年度	削減用 水量の 取水 削減 率	取水 制限の 開始 日	取水 制限 日数	水道事業体の対応			
				県外水道企業体	守谷町	利根町	その他の 市町
平成 6年	15%	7.22~ 7.29	9	減圧給水、 特に影響なし	減圧給水、 特に影響なし	節水よびかけ	
	20%	7.29~ 8.16	19	減圧給水、学校 プールの使用中 止、特に大きな 影響はなし	減圧給水、学校プ ールの使用中止、公 園の給水停止、特 に影響はなし	減圧給水、学校プールの使 用中止	
	30%	8.16~ 8.21	6	減圧給水、学校 プールの使用中 止、特に影響は なし	減圧給水、学校プ ールの使用中止、公 園の給水停止、特 に影響はなし	減圧給水、学校プールの使 用中止、特に影響はなし	
	40%	8.30~ 9.8	10	減圧給水	減圧給水		

県に代わって
水需要の上限値を予測する

2020年度
人口 300万人 給水人口 300万人
水洗便所普及率 100%
として
1人当り1日最大給水量 406リットル
(東京都の2003年度実績)
を参考にすると
1日最大給水量の上限値122万 m³

私たちの2020年度水需要予測

1日最大給水量の 上限値(A)	122 万 m ³
水道保有水源	125 万 m ³
転用可能な工業用水	57.2 万 m ³
水道保有水源合計(B)	182.2 万 m ³
余剰水(B-A=)	66.2 万 m ³
163万人分の余裕を持っている	

「いばらき水マスタープラン」、茨城県企業局資料

さらに
ハツ場ダムなど県の進める水源開発
63.7 万 m³を加えると
水道用水の保有水量は246万 m³になる

300万人に満たない茨城県が
606万人分の水を持ってどうするのか

最早、一刻も早く
ハツ場ダムから
撤退すべきである
さらに
霞ヶ浦導水事業など
途上の水源開発からも
撤退すべきである